

# 令和6年度 重層的支援体制整備事業研修会 アンケート結果

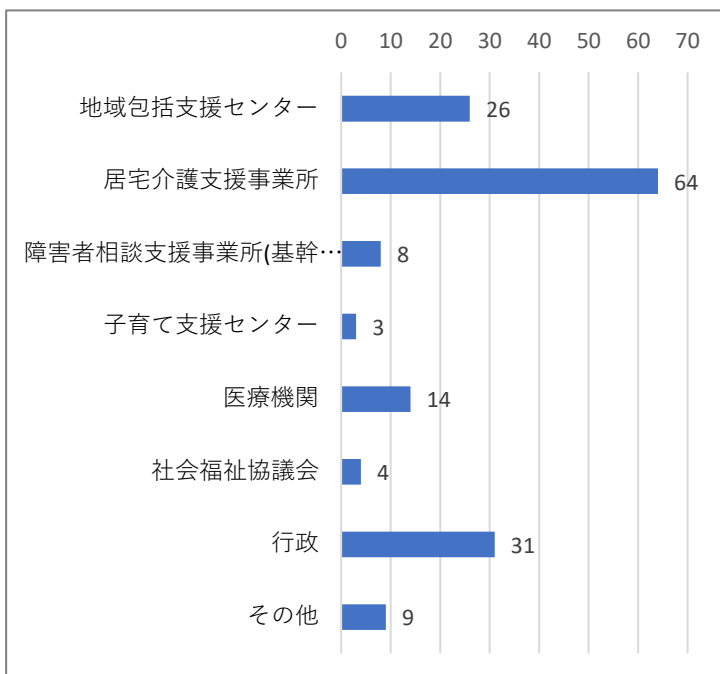
- 開催日時 令和6年5月27日（月） 14時～16時
- 場所 長崎市役所 2階 多目的スペース
- 参加者 179名
- 回答 159名（回答率 約89%）

## Q1 ご所属を教えてください（複数回答あり）

地域包括支援センター	26	名
居宅介護支援事業所	64	名
障害者相談支援事業所(基幹含)	8	名
子育て支援センター	3	名
医療機関	14	名
社会福祉協議会	4	名
行政	31	名
その他	9	名

（その他の内訳）

地域生活定着支援センター、発達支援特化型支援センター 各2名  
 難病相談支援センター、難病、児童家庭支援センター、施設、長崎少年鑑別所 各1名

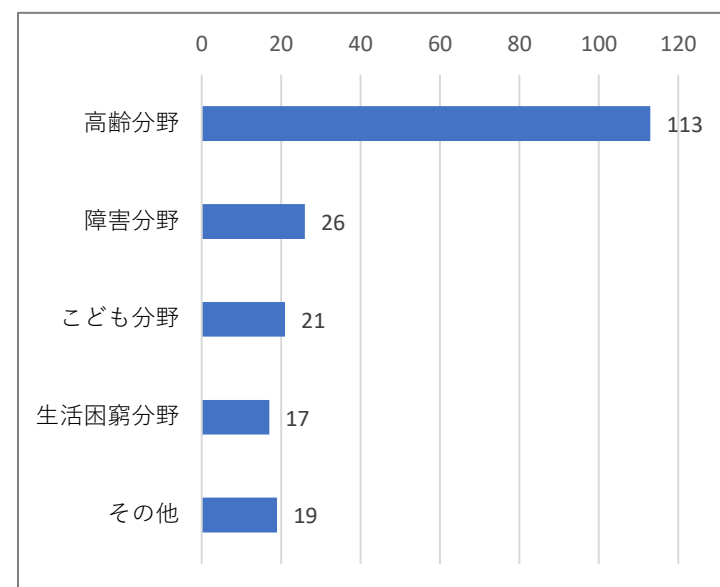


## Q2 担当する分野を教えてください（複数回答あり）

高齢分野	113	名
障害分野	26	名
こども分野	21	名
生活困窮分野	17	名
その他	19	名

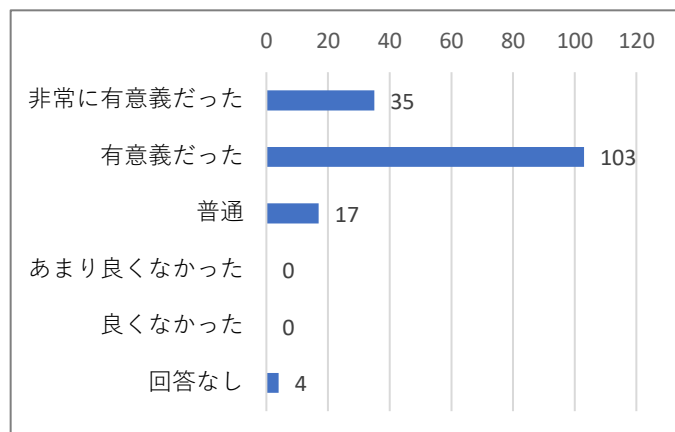
（その他の内訳）

医療 3名  
 全般、地域づくり、触法、難病 各2名  
 高齢・成人・こどもの健康支援の窓口、子育て支援、重層事業担当、重層実施機関、小規模多機能自治、地域援助（心理相談）、地域福祉、特別支援教育 各1名



### Q3 研修を受講してみて、いかがでしたか

非常に有意義だった	35	名
有意義だった	103	名
普通	17	名
あまり良くなかった	0	名
良くなかった	0	名
回答なし	4	名



#### 理由もしくは感想

##### 【非常に有意義】

- ・重層的支援についてイメージが湧きました。
- ・かぎりのある資源をどう有効利用したらいいのかは再度考えさせられた。
- ・国や市の事業について知り、また多機関型地域包括支援センターの事例を聞いて事業のイメージをもつことができた。
- ・多機関型地域包括支援センターの役割が良くわかりましたので、何かありましたら相談したいと思いました。
- ・地域で暮らす方々が抱えている問題が表層化しにくくなってきた中で、多機関がいかに問題に気付き、対応できるかが今後大切になると学びとなった。問題に応じて適切な機関へつなげていきたい。
- ・重層支援とは支援者支援の視点も含まれていることを知ることができたため。
- ・様々な相談事業において、複合的かつ困難なケースが今後も出てくることが考えられる。重層的な支援は早期又は現在予備軍になろうとしている困難さを抱えている方達にとっての居場所、相談場所になってくるのではないかと。包括支援センターとして、何ができるのか考える必要があると考えた。
- ・事業がもっと浸透する様に定期的に研修会を開催して頂ければと思います。
- ・事例が伺えて良かったです。行動（こんなあったら良いな〜）等、行おうとした際、どこにアイデア等持っていけば良いのか分からなかったのが、参考に成りました。
- ・重層型支援の必要性を感じた。顔のみえる関係性づくりからだと思いました。
- ・少年鑑別所（法務少年支援センター）も、所在地である長崎市の重層的支援体制に相談機関として参画し、有効に機能していきたいと考えました。
- ・重層的支援体制整備事業についてよく理解できた。
- ・1つの分野にとどまらず複数の分野で協力して支えていくことで、多くの課題を抱えているケースに対応ができるということを知り、“つながり”の重要性を改めて感じる事ができた。
- ・とても分かりやすかった。
- ・多機関型地域包括支援センターさんの事例が大変参考になりました。どこでも子ども食堂や会社社長さんなどインフォーマルな社会資源など、それぞれの分野の私達も視野を広く持つと、活用できるのだよなぁと思いました。
- ・自分自身も社会にはたらきかける資源をつくってみようと思った。とても希望を持って話を聞くことができた。
- ・どこの部署にいてもまず受け止める。しかし、重層的な問題の世帯が多いため、そういう時にはどこの部署でも押し付け合いになってしまい、主体が不明確で、ケースが宙ぶらりん状態になってしまっている現状もあるので、それをこのシステムができることで、円滑に進んでいってほしいと思う。
- ・国の動き、他市の活動と市の動きを知ることができた。

##### 【有意義】

- ・重層的支援体制での他部局との連携の重要さがわかったため。

- ・総論を改めて学ぶ機会になった。事例をたくさんの方のせて頂いているので、後程じっくり読みたいと思う。ありがとうございました。
- ・地域共生社会についての理解を深めることができた。長崎市における重層的支援体制整備事業の取り組みや多機関型地域包括支援センターでの取り組みを知ることができました。
- ・南部地域での会議は南部に入っている事業所に声をかけられているのか…入りたかったなと思います。地域住民の方も入っていれば良いなと思います。実際されていることを把握してないことも多く、発見も沢山ありました。
- ・重層的支援は今後今まで以上に必要になってくると思ったので。
- ・理解するには時間が少なかったように思います。
- ・身寄りがない方、家族と疎遠な方が増えている印象があり、課題も複合的になっているので、誰かにつながる場、みんなで支える仕組みがより大切になってくることを改めて感じました。言葉だけの連携にとどまらないように、私達自身も積極的につながりを広げていきたいと思います。
- ・長崎市全域を6人の社福の方々が担当しているのは大変なことだと思います。
- ・北多機関型地域包括センターが行っている事例を具体的に知ることができたことが、とても興味深かったです。
- ・重層的支援体制整備事業という言葉をよく知らなかったので、勉強になった。
- ・重層的支援事業の方向性が少し理解できました。
- ・重層的支援という言葉は知っていたものの、具体的にどのような取り組みが行われているのかは分かっていなかったため。特に対応できるクライアントの範囲が広がった点が印象に残った。
- ・わかりやすい資料と説明だったためです。ありがとうございました。
- ・多機関型地域包括の存在は知っていても、具体的にどのような相談をしてよいのか分からなかったが、今回事例を通してその点が分かりやすかった。
- ・重層的支援体制整備事業について、詳しく分かりやすい資料をいただき、内容がきちんと分かりました。
- ・ぼんやりとしかわからなかった事が、事例等まじえてくださったのでわかりやすかったです。
- ・他分野の基本的な知識がないため、あたりまえに話されていることがわからなくて困っていたが、CONNECTなどの利用で、解決できそうです。
- ・現状ある組織をそのまま使って、横のつながりを強くしていくことが必要だと思う。事例で社長さんの善意だけに頼って良かったのか疑問がわいた。たまたま良い人にあたって良かったが。
- ・犬丸さんのお話を聞くことで、重層事業についてよく理解できました。日々活動をしていると、相談支援を中心に本人さんに必要なサービスや支援を考えていきがちですが、支援者同士、地域の方がつながって地域を作るという他県の取り組みにワクワクすることが出来ました。
- ・多機関型からの実際の事例紹介を聞き対応内容など参考になりました。
- ・多機関型包括の方の相談事例への支援内容を伺い、多様な機関とつながり、支援策を検討することが第1歩かと思った。
- ・他分野つながることの大切さ、学び続ける大切、あらためて考えました。
- ・新しく事業を行うのではなく、他（多）分野連携による事業であることがわかりやすく理解できた。実際の事例を聞くことで、とてもよくイメージができた。
- ・知らない支援事業を知ることができた。
- ・「地域共生社会の実現」はしばしば様々な場面で勉強会や研修等参加したが、今回の研修を受け、相談者主導ではなく全ての資源（地域）を巻き込んでの取り組みが大切であると感じました。
- ・各所つながりに向けて試行錯誤していることを実感できてやる気がでた。“腹をわたった現場のやりとり”について考えていたところでしたので、背中を押していただいた気持ちになった。
- ・事例を活用した内容はとてもわかりやすかったと思います。
- ・重層的支援について知ることができた。他市町村や多機関の取り組みについても知ることができ、改めて多機関連携の重要性を感じた。
- ・普段考えないことを考えるきっかけになった。
- ・事業の意義、目指す所は理解できた。ただ、既存の機関等を活かしつつ、そのままの体制でこの事業がスタートすることが、即問題解決の道筋を明確にして、対応がスピーディかつスムーズに進むのか…は、正直な所まだぴんとこなかった。

- ・多機関の取組みについて知ることができたから。
- ・入口支援・課題の早期発見の重要性と、地域づくりにおける他分野のまきこみについては仕組みの理解になった。
- ・正直知らなかったため、知る事ができた。
- ・事例が紹介されていて、具体性があり、大変わかりやすかったからです。
- ・直面している問題も大事であるが、“なぜ問題が複雑化”したのか等をよく考え、他の世帯、対象者にも生じている課題かもしれないという視点を持ち、課題に予防的に介入できるような“つながり”が皆で作ってあげればよいなと思いました。
- ・今後複合的な課題を抱えるケースに対しての支援を考える場合に一つの指針になると思ったので。
- ・重層的支援体制整備事業が何を指すべきものなのか、方向性がよく分かりました。
- ・多機関型地域包括支援センターを開設して8年になるようですが、2ヶ所では広域すぎると思います。あいさつで増やしていく予定？と言われたので、いつごろ開設されるかなど今後見守っていきたいと思います。
- ・多機関の動きを知れて良かったです。
- ・ご講演、有難うございました。重層的支援体制整備事業の概要について、理解することができました。
- ・地域共生社会の実現に向けて、具体的取組（全国の）が知れてよかった。実現するには行政の力も大きいのではないかと。支援関係機関がうまく協調する必要あり、「社会とのつながり」を構築していくことがキーワード。
- ・地域づくりについてイメージしやすい内容であった。事例について、わかりやすかった。
- ・事例がとても興味深かった。高齢者への対応が多いので、若い方の相談や子供への対応が知れて良かった。
- ・一人の人に対しての問題は重複している。色々な分野の支援が結びつくことは理想だと思います。なかなかきっかけが掴めない。私も少しづつ学んでいきたい。
- ・実際に自身の利用者様やそのご家族・知人などに重層的な支援が必要ではないか…？と思う時に、どう声掛け支援をすすめていけば良いか考えさせられました。
- ・分野を分けるのではなく、今関わっている人が専門分野に橋渡しをする。みんなで関わることだと理解できました。
- ・重層的支援体制整備事業について理解することができた。
- ・長崎市の取組事例や活動内容が参考になった。
- ・わかりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ・「重層事業」の具体的な内容がよく理解できた。
- ・わかりやすくスライドが作られていたと思います。
- ・つながりを作っていくことの重要性は、大変理解できました。しかし、つながる方法、具体的な方法は、既存の支援体制、新たな支援体制など、まだイメージができていないのが現状です。
- ・重層的支援体制の内容が分かった。
- ・地域づくりの視点・考え方が分かりました。
- ・重層的支援体制整備事業とはなにかを知ることができた。その中で、地域づくりがどう関わっているのかについても理解できた。
- ・共生社会に対して、また新しい見方や考え方を学ぶことができた。
- ・具体的な例を挙げていただいた事でイメージが付きやすかった。課題における対応だけではなく、予防的に取り組む。「街づくり」のイメージがついた…。
- ・実際の活動内容を聞いて良かった。
- ・福祉だけでなく産業など他分野まで含めた考え方が、まさに地域づくりだと思った。
- ・まず知ることから始めます。
- ・今後は介護保険の制度だけでは不十分なので、多種多様の制度を理解し提案していかないといけない事を学んだ。
- ・相談支援を行っていて、どうして良いかわからない。これ以上の支援は難しいと頭を抱えることがあるが、多機関地域包括支援センターへ相談できると聞き視野が広がった。事例等をもっと知りたい。
- ・支援会議の重要性。
- ・重層事業についてよくわかりました。誰一人取り残さない地域が実現できればいいと思います。
- ・“わかっていること”と思っていましたが、改めて勉強になりました。“つながること”は、大事なことだと思いますが、むずかしいことでもあると思いました。特に今の時代、つながることを望まない方もいるなど日々思います。
- ・事業について考え、学びを深める機会となった。



・支援の内容の中で就労まで、又、困窮者に役割を持ってやりがい、生きがいを持ってもらう…とてもすばらしい！！と思いました。

#### 【普通】

- ・事例について ①相談窓口を周知できていない。②生活保護につながりましたが、父の復活後はどうの方針なのか聞きたかった。
- ・もう少し具体的な活動内容について知りたかった。多機関型包括支援センターが抱えている問題点や地域の課題、取組んだ内容。行政が事例やケースに対して行ったこと等。
- ・事例を通して（全体の）イメージがしやすかったです。
- ・子育て分野になるため、わからない単語など発言されていた。また、どのように連携していくのかみえませんでした。（どこがスタートなのか）
- ・具体的な取組み内容がよくわからなかった。
- ・内容はすごくよかったが、実行に移すのは大変だと思った。
- ・以前より重層的支援体制が必要だと感じ、数年前より実践している状況です。行政との連携が1番難しいと考えていましたので、今回の研修内容が本当にすすんでいくのか気になっています。
- ・もう少し事例等があった方がよかったと思う。
- ・持続可能など言い始めた頃から行きづまり感を感じ、もう持続可能ではないんだろうなとあきらめムードです。国や行政はなんとかしなくてはと頑張ってる感が伝わり不安になります。将来がこわいと感じる世の中に、少子化になるのもムリないと思います。無力感。でもあきらめたらおわってしまう。

#### 【回答なし】

- ・今後高齢者を支える人がいない。社会資源を構築する必要性と課題がある。
- ・何をすべきかよく理解できなかった。
- ・厚生労働省の方より大枠を聞くことができ、その上で市としての動き、多機関型包括より現場の支援例の紹介があり、とてもわかりやすく感じました。病院の中で働いていると、なかなかアウトリーチの機会が少ないのですが、どうやったら少し踏み出せるかを考える機会になりました。

## Q4 多分野間で連携するうえで、困っていることはありますか

#### 【地域包括支援センター】

- ・生活困窮、障害の高齢者に対する支援。
- ・本人が社会資源の受け入れが難しいケースをどう支援していくか。地域の方々を含めての支援をどのようにしていけばいいのが難しい。
- ・相談先との連携
- ・それぞれの分野間での役割分担ができず、初動で相談を受けた包括が結局動いているケースが多々あるように感じます。
- ・多くの課題を抱えているケースの場合に、まずどこに相談するべきか。どこと連携するのが本人にとってよいのかの見極めに難しい。
- ・各分野、事業所ができること、できないことの役割の理解不足？
- ・どこに相談したらよいか、軸をどこにするのか？迷うことがある。
- ・障害や児童など、制度の流れが分からないので、相談があった時具体的な相談窓口が分からない。
- ・地域づくり、つながりづくりについて、多機関（包括、SC、地ケア）など、それぞれで活動されていますが、調整等のすみ分けについて、明らかになればと思います。
- ・制度の理解度が各々の職種で違う。どこが主導するか。
- ・担当者間の相性などで、支援のかたよりに感じたことがある。

・高齢者支援する上で、同世帯内に障害者がいる場合、障害者の方の個人情報、行政に相談してもすぐには相談にのって頂けなかったことがありました。仕方ないこととは思いますが、個人情報開示の壁で対応が進まないこともあると思います。

・本人の意欲が全くない時、結局一緒に動けないといわれた。本人の意欲を引き出すことに困る。

### 【居宅介護支援事業所】

・相談してもなかなか解決に至れないことが多い

・CMがついていると、CMに任せっぱなしで、報告をさせる事しかない。障害の方も、使うのもハードルが高い。（重度訪問介護については、国の方針より長崎県は厳しい!!（ヘルパーを50%利用するなど）

・困っている事がありましたが、地域包括をとおして多機関に相談させて頂きました。

・居宅としてはケアマネの仕事の範囲があいまいで、普段なら対応しない内容まで求められる。

・高齢者に関していえば、まだ介護事業に対する理解、認識が薄いと思う。（特に医療機関に多い）そのため利用者の情報を聞き取りにくい。

・介護分野から逸脱するときに。例として障害・年金・ネグレクトなど見方が必要な時。

・相談の窓口ははっきりせずに問題が解決するまで時間がかかった。

・介護支援専門員として対応、その家庭が持っている問題が以前よりは困難な問題、多機関型地域包括支援センターが対応している問題もありますので、相談を行っていきたい。現在は担当した時からゴミ屋敷になりつつあるケース、本人・家族との関わり方がスムーズに行えていない。※困ってないが、早めに相談することを学びました。

・居宅介護支援事業所で、まだ多機関型に相談したケースはありませんでしたので、今後は意識的に相談していこうと思いました。

・お互いの職種の理解不足がある。

・行政との連絡が上手くいかず、情報共有が難しいことが多い。

・調整（スケジュール）

・地域の包括の方が親身になって対応してくれているので、現状困ったと感じることはないです。

・コミュニケーションの場が少ない。

・多機関型地域包括支援センターがある事で、複合的な課題があるケースにおいて、制度間の狭間の方の相談がしやすくなった

・家族が生活困窮であるが、入り込ませてくれない家庭の支援をどうするか…相談も個人の問題があり、しないでくれという考えで進めた相談に踏み込めない。

・今は事例がない。

・医療関係（医師・薬局）との連携がとれないこと、協力を得られないことが度々あり、困ることがあります。

・多機関に相談した事がありますが、結局解決に至らず残念でした。行政も同じく「出来ません」で終わってしまい、一事業所として出来る事の少なさに無力感を感じました。

・サービス事業所において、責任者の方が地域共生社会について理解がない。知らない方も多いように感じる。

・30～60歳代の家族への支援で、家族・本人の同意が得られず、相談できない。（信頼関係を損ないたくない為）

・他の分野の業務が分からないので、どう相談していいかが分からない。相手の求めているものを知るんですね。

・ケアマネとしてどこまで関わるか。時間的な拘束が増えすぎると、他の利用者様への支障も出るので…。

・担当する分野以外のことで、どこへ相談すべきが迷うことがある。

・トータル支援をうたっているがつかまる所。それぞれの機関での支援になっている。

・なかなかご本人や家族等の同意が得られない。あるいは、対象の方々の足並みがそろっていない点が難しいなあと思います。

・認知症に対して問題があり、解決しない。

・リスクなどの認識の違い。

・担当する高齢者ケースのキーパーソンの長男。

・いわゆる8050問題といわれる状況の家庭で、高齢者の支援者として同居する子に期待しても、発達障害と疑われる場合が散見されるようになってきた。相談する先に迷うことがある。（子にも支援が必要と思われるが…）多機関型包括？

・どこにどんな連携をすべきか分からない。包括支援センターへ相談しても上手くいかなかったケースがある。この場合はどこへどのように相談したらよいか、方法等が分からない。

・各分野の中で、医療との連携はむずかしいことがある。（外来時間なので）面会・相談の時間調整が出来ない。

#### 【障害者相談支援事業所（基幹含）】

・つい自分の思いつく範囲の中で問題解決の方法を考えてしまう。もっと自分の視野を広くしたい。

#### 【子育て支援センター】

・今の現状子ども家庭サポートセンターや子ども政策課（長崎市）としかつながっていないためどのようにつながるのか？また、施設自身未就学児さんまでしか対応できないが、それ以上の年齢の方をどのように支援するのか分からないです。

#### 【医療機関】

・どこで何ができる、してもらえるがお互いに分からない時。

・同世代と関わる機会があれば、連携しやすいかと思いました。

・視点の違いによって各々が優先して解決したいことにズレが生じること。

・まだ入職したばかりで、連携までできていないため、わかりません。

・経験があまりないので、どんな支援があるのかを知ることから始めたいと思います。

・関連分野への啓もうが果たしてできているか。特に福祉分野以外の分野において。

・他分野の方に連携するきっかけがもてない。

・民間の事業所のSWは、支援をしたいと思っても事業所の理解やコストをかけること（人的・時間的）への後ろだてがないことも多いと思う。特に医療機関では診療報酬で評価されないと、活動したくてもできないことがある。又、ソーシャルワークへの理解が退院支援に偏りがちで、それ以外の相談支援をやりたくとも難しい背景がある。

#### 【社会福祉協議会】

・お互いの事業について話せる機会が多くあれば良いなと思います。

・それぞれの分野の情報不足を感じる場合があります。交流機会（「つながり」をもてる様な場）も少ないように思います。

・支援のスタートからどこまでがゴールになるのか分からない。

・虫の目（相談支援）と鳥の目（地域支援）の連携。ニーズに基づいた地域づくりに相談支援の関係者は連携できる環境にない。

#### 【行政】

・個別ケースの支援において：様々な相談機関、医療機関につながってはいるが、その方やその方の世帯の困り感や課題を解決する方法や支援をどの機関も提供することができないことがある。（一般論的な話しができない）。体制整備において：分野が多くなると小回りが利かなくなる（例：会議開催の日程が決まりにくいetc.）

・庁内での福祉・保健分野、まちづくり・商工分野との連携をどこから取り組めばいいのか。

・困ることはないと思いますが、できる分野が少し重なる部分もあると思いますので、その場合にどこが対応するのか迷うことがあるのかなあとと思います。

・業務上での連携はできているが、深まった広がった連携までは難しい。（それぞれ忙しいでしょうし）

・複合的な問題を抱え、制度の狭間にいる方の支援の際の役割分担がまだ難しいと感じます。まずは本日の講義をもとに、全ての社会・経済活動も基盤として地域をみていきたいと思います。

・最近相談させて頂きました。役割分担しながら支援をしていくことになると思います。困っているところまでいきませんが、イニシアチブがあいまいにならないようにしていきたいと思います。

・まだ今のところはない。

- ・8050共依存関係の虐待に準ずる支援。
- ・自分の支援制度は把握しているが、他の制度を把握していない場合、適当なつなぎ先、連携先が不明。特に狭間の方。
- ・8050問題で、障害の本人が家族から暴力をふるわれているネグレクト状態であるとなった場合、障害者虐待として障害に相談（通報）があがってくる。そして障害に丸投げ状態になってしまうため、障害で会議を持つことにしたというケースがあったが、複合的な問題のため、障害だけの問題ではないが、どうしても障害者がいる場合は障害で…という流れになってしまっているところがあるような気がする。
- ・業務のすみわけとどこが旗振りとなるか。
- ・地域のつながりの脆弱化。
- ・地コミの中では、まだまだそのような連携や事業として実行するまで成熟していないところ。

#### 【その他（回答なし含）】

- ・相談内容は多岐にわたっており、高齢で難病、子供で難病、障害者手帳を持たない難病患者など重層的に連携をする必要がある。
- ・多機関さんをはじめ、多くの支援者さんと協力して支援を行っています。それぞれの分野のつよみをいかして支援を行っています。支援者が多すぎて利用者がどこを頼ればよいか分からない時があること。情報共有時の守秘の徹底には少し悩みがあります。また行政発進の支援はそれぞれの分野の法や活動が点在してそれぞれの取組みが重なっているので、お金が無駄に使われているような気がします。
- ・多分野間で連携はそれぞれを結び付ける何かがないと難しいと思った。
- ・既存の支援を越えて新しい支援の形を考えた時に、相互賛同して同じ方向を向いて進んでいくまでの話し合いを持つ機会を作るところから難しいところがあります。
- ・連携することへの拒否感、つながりたくない、受け入れたくないという場所も多いです。
- ・少年鑑別所（法務少年支援センター）の相談機関としての機能が、他機関にあまり知られていないと感じるため、広報に努めていきたいと思います。
- ・フォーマルサービスだけで支援を組むことに限界を感じており、ボランティア等、多様な支え手がつながり、見守り、気づく仕組みづくりについて行政が主導してもらいたい。

## Q5 重層的支援体制整備事業を推進していくために、何が必要だと思いますか。

### また、ご自分の立場で出来ることは何かありますか

#### 【連携・交流等について】

- ・長崎市内で触法行為のある高齢、障がい者（疑い含む）がいれば、ぜひ連携していければと考えています。こちらもぜひ相談したいと思いますが、こちらからも会議への参加者でお声掛けいただければ幸いです。
- ・他機関との連携。色んな視点を持つ。
- ・色々な分野の方とまずは幅広く交流を図っていくこと。他法をもっと学び知る。
- ・（新しく作ると金銭がかかるので）地域にある公民館をいつも開放し、（差し入れなど・作業など・会話・学習など）（大人・子供も）集まりやすい場所を作る。
- ・自分の地域で自助・互助における地域のつながりについて深めていきたいと思います。
- ・関係機関がつながることで、よりよい支援ができると思います。交流機会（交流場）に参加し、情報提供や情報収集に努めたい。
- ・視点の違いがあると各々が理解した上で、意見のすり合わせのカンファレンスを定期的を実施する。
- ・情報が共有しやすくなるためのツールや、多職種間での会議の場が必要だと思います。また、今回提示していただいたような事例と対応結果についても、事例集として公開していただければ嬉しいです。
- ・SNSの利用、機関ごとLINEでつなぐとかあるかも。いろいろとありそうです。
- ・サロンや自主グループなどの既存の団体の中で、他分野との関わりを持つ機会を設けることができればと思う。
- ・腹を割って話せる関係作りが必要だと思います。お互い話しやすい関係を作りたいと思います。
- ・まずは、自分の活動（つよみ）を沢山の方に知ってもらうことが大切だと思います。



- ・相談しやすい体制づくりと関係性づくりを行う。集いの場等に対する体制整備。そこからの発展。
- ・多分野での会議を行う際には準備期間が長すぎる為、もっと頻回に話し合いができればと思う。
- ・他分野の方と話がしやすい関係づくり。
- ・多機関型地域包括支援センターとまめに連絡を取り合うことを意識して仕事に取り組みたい。
- ・おっしゃる通り“はらをわたつやりとり”だと考えます。職場内（家庭もですね）からスタートして、広げていきたい。“子育て支援”から様々な早期支援、アウトリーチができると思うので、しっかり取り組んでいけるよう実践をつみたい。
- ・自分だけで抱え込まず、まず相談をしたい、しなければと思いました。
- ・地域からニーズを把握できたとして、その後の連携がスムーズにいくなような流れを作してほしい。SCの増員が必要。（ニーズ把握・多機関へのマッチングのために）
- ・1.相談支援期間（特に分野をこえて）が地域づくりを考える。2.地域支援期間が個別支援につなげる地域づくりを考える。⇒1.2のような研修（事例学習など）。一般企業や地域と福祉の連携のパイプ作り。
- ・地域の協力。
- ・多分野での勉強会。多分野での事例検討会。
- ・健康で安心した生活を送ることができる地域を自分達でつくるという視点。それぞれの分野で足りないところを要求するのではなく、何が出来るかを一緒に考えていく姿勢。つながって知恵を出し合って、一緒に動いていきたいと思います。
- ・地域のネットワーク。相談しやすい関係構築。
- ・相互に話ができる顔の関係づくりができると良いなあと思いますので、機会があれば連絡致します。
- ・支援者同士の関係性を深めること。つながりを豊かにしていくことが必要。生活課題が潜在的に気付く。早めの介入。地域の人達を巻き込む。インフォーマル資源を活用。
- ・地域住民との関係が薄れている中で、つながりを持つことは困難ではないかと感じる。いろんなコミュニティー（組織）が必要ではないか？私にできること。コミュニティーや社会資源の情報を得て、提供すること。
- ・一人で抱え込まない、知恵をかりる。情報の共有を図ることかなと思っています。
- ・住民同士がつながる色々な機会が地域の中にたくさんあること。地域コミュニティのしくみづくりの推進。
- ・情報提供、情報交換の場作り。
- ・複合的な課題を抱える方・家庭があった時に、必要なことは、気付いたことを共有できる場。
- ・多くの機関が顔を合わせ“つながる”ことが大切だと思います。知らない機関に相談するのは、専門職でも少し勇気がいります。

#### 【情報不足について】

- ・色々な機関があることを知ること。どのような役割を担っておられるのか、もう少し理解しておかないといけないと思いました。
- ・犬丸さんが仰っていたように、まずは支援者が何を考えているのか、何がWinなのかを知ること。会議によればたら、とりあえず出席してみます！
- ・障がい・子育てなどこれまであまりなじみのない分野に対する理解がもっと必要だと思う。住民の方が相談しやすい環境、窓口の設置など。
- ・様々な情報を自分なりに集めて、うまく活用できるようになりたいと思いました。
- ・お互いの理解、受け止めて話を聞く。
- ・担当の分野だけでは解決できない事もあるため、他分野がどのような事をしているのか共有しておくこと。
- ・今回のような研修や協議会に積極的に参加し、何がどこでどのように行われているかを知り、自分の施設・業務との接点を見いだし、作っていくことが大切だと思います。
- ・色々な分野の人がまず事業について知って、とっかかりやすいきっかけを作る。
- ・重層的支援体制整備事業を色々な分野の人に知ってもらうことが必要だと感じたため、今日聞いたことを参加していない同僚へ伝えます。
- ・他機関の業務内容。支援内容の理解とつながり作り。
- ・地域にとって何（どんな場所・店・サービス等）が必要かの把握が必要だと思います。
- ・色々な会社を知る。福祉施設・医療機関だけではなく、事業所の事を知る。

・今まで介護保険制度のみ理解すればよかった事が、どんどん障害福祉や生活困窮や子育て世帯etc.の多種多様な制度の研修や交流会の場があれば、より理解し活用できるのではないか。ケアマネとして、まずは制度の理解をしないと提案もできないと思う。

#### 【周知について】

- ・市民への周知を広く行うべきと考える。自身としては、関係機関とのこの事業の理解と推進を行っていく。
- ・相談ができるということを知らせていくこと。
- ・困ったら相談する所があるということを知ってもらうこと。SOSを発信してもらえるような体制作り。
- ・事業の認知度が低いと思います。広報活動の充実で事業について知ってもらうことで、私自身が事業の1つの資源として参加できることなど、見つけていくことができるかと思いました。
- ・重層的支援について、もっと知ってもらうことが、現在は必要かと思いました。必要性や具体的な事例などが広まると、理解しやすいと思いました。
- ・社会全体でそういう事業があることを認識できるようにしていくことが必要。相談しにくい環境も利用できない理由としてあると思う。
- ・相談窓口のPR。声なき声を拾うために、学校、病院、商店などに「何でも相談してよい窓口」として、電話番号を掲示するなど行う。
- ・地域のあらゆる分野の方への周知や協力等。
- ・幅広く認知してもらう為には、事業名をわかりやすい名前にすることが重要だと思います。漢字がたくさん並んでいる名前は、読む気にもならないと一般の方に聞くことが多いです。自分の立場でできることは、今思うことは、発信していくことだと思います。
- ・地域の人達に存在を知ってもらう。意見・相談が聞きやすい、話しやすい場所づくり。
- ・自分の分野のアウトプット。
- ・今回、事例でもあったように、協働してくれるお店や社長ご夫婦がいる反面、一般の方々への理解、周知も必要だと思う。・地域のかかわりが薄くなっていることは、自分も様々な研修に出て、またサロンや地域のイベントに参加して、協力者を増やしていけたらと思った。
- ・社会、地域に働きかけを行い、地域を変えていくこと。地域に必要なニーズを掘り起こしサービスを作っていくこと。

#### 【行政について】

- ・まずは行政が縦割りを崩すべきだと思います。レスキュー事業を対応している法人ですが、丸投げに依頼されているような気がしますので、一緒に関わって頂きたい。
- ・制度・法令化、予算。
- ・市役所内での壁をなくして、各々が連携していくことによって広がっていくと思う。
- ・多機関型地域包括支援センターの増設。まずは行政関係各課間での連携、協力体制をしっかり作ること。事業の推進が各立場における負担増を伴わないこと。特定の個人（地域住民、各担当など）や団体のやる気や厚意に頼らない制度設計。
- ・行政の明確なビジョン。
- ・北と南に多機関の包括がありますが、足りないのではないのでしょうか？北と南の方もケースがいっぱい聞いています…。
- ・全体的に“自ら相談に行く”というハードルが高いと思います。困っている人に対して、支援者から寄り添える地域づくりが必要だと思います。地域と困ってる人をつなぐ方法が必要で、その支援を行政が行ってもらえればと思っています。
- ・地域共生社会の実現は、実現するために多くの予算がかかりそうです。意欲があっても予算がない。意欲があってもノウハウがない等の問題がありそうです。民間主導では難しそうですね。
- ・もっと民間の力を信じて頼ること。長崎市は主体的になかなか動いてくれないので、もっと引っ張るつもりで動いてほしい。
- ・まずは庁内の関係部署と「顔の見える」関係をつくっているところです。

#### 【その他】

- ・モデル事業を成功させ、長崎でも行うことがあたりまえの様になると良い。

- ・人員確保。
- ・主体が本人・家族・地域ということを忘れないことだと思います。マネジメント実践です。
- ・予防的視点が重要であると聞き、退院支援をする際、目の前の問題だけでなく、予防的視点も意識しながら支援していきたい。
- ・支援者の要支援者に対する対応、話の聞き方。
- ・未就学児さんまでは親子の相談などできますが、それ以上（特に老人）には対応できないと思います。
- ・孤立をなくしていく。
- ・できる範囲で何でも協力します。
- ・各市の取組みを知った事で、自分でも何かお手伝いできることがあるのではと、気持ちが暖かくなりました。主体的にはできないかもしれませんが、関わる事でできるのではと思いました。
- ・相談させやすい（自分にしたくないなら、他事業に相談、提案する）環境のアドバイスをできるようになる。つなげるまでの支援の懸け橋になる。
- ・住居、事業所、近辺をもう1度見直してみる必要があると思いました。
- ・地域共生社会の理念は共通するものであり、理解しやすかったです。既存の事業+αでできることをみつけ、その方法を見出せればと思う。
- ・必要性は理解でき、そのような地域づくりができればと思いますが、難しさも感じます。実現するには…。地域資源どんなものがあるのか、それがどうしたらつながるのか…。やはりつなぐことが必要でしょうか…。まずはそういう事例を通して繋がれたら…。
- ・まずは自分の担当する分野で出来ること、出来ないことをはっきりさせておくことが必要だと感じる。そうすることで、出来ない部分はどこか、出来るのかということが分かり、スムーズに連携できるのではないかと思う。また、先を見すえた課題にも目を向けることが大切だと感じた。
- ・物事を俯瞰すること、個別の課題を重点的に読み取ることを同時に行う（関係機関同士の繋ぎ）。困っている本人をおいてけぼりにしない。
- ・市役所に相談するとき、社協への相談をすすめられることがある。高齢利用者への対応は、ケアマネや包括が中心で行われることが多いが、家族への支援のリーダーシップをどこが取るのかがわかりづらい。
- ・自治会の活性化。（一番身近で見守りしやすい。災害の時も役立つ）
- ・各機関それぞれが重層的に連携支援を進めていこうという気持ちが大事である。自分の立場でできることは、重層制度の周知を市民・社会資源に行っていく。
- ・高齢者（親の）年金で子供が引きこもっている家庭が多くみられることがあり、親が亡くなった場合、どうなっていくか不安ではあります。
- ・縦割りの支援体制の改善。
- ・コミュニティの充実。
- ・高齢者（利用者本人）方だけではなく、家族、孫の抱えている悩みにも耳を傾け、必要な分野で協力し支援していく。